櫃本先生の話に真剣に聞き入る来場者

その人らしい生き方・死に方を尊重

◎鬼北の医療と介護の未来を考える講演会

「第5回鬼北の医療と介護の未来を考える講演会」は2月14日、近永公民館講堂で行われました。

「地域包括ケア時代」と題して、愛媛大学医学部附属病院総合診療サポートセンター長・櫃本真聿氏を講師に迎えて行われた本講演。櫃本先生は、「時々医療、時々介護が一番。介護依存者を増やさないように」と語りかけました。

また、「元気高齢者の育成が大切」と話し、「若者が高齢者を支えるだけではなく、元気高齢者が若者を支えていく」と、いつまでも高齢者が働ける場所があることの重要性を訴えました。

人形劇の一場面。栗の木とコンちゃん

「生命」の繋がりを感じて

◎きほくの里人形劇

2月22日、近永公民館講堂で、東京都の「劇団すぎのこ」による「きほくの里人形劇」が行われました。

この日は、アンパンマンの作者であるやなせたかし氏原作の「そっくりのくりのき」を披露。「生命は永遠に受け継がれていく」をテーマに、主人公である栗の木のおじいさんときつねの女の子が、子ども達に「生命の大切さ」を伝えました。

劇団員たちの熱演に、参加した子ども達はどんどん物語の世界に引き込まれ、真剣な表情で見入っていました。

調印式に出席した代表者たち

高齢者が安心して暮らせるために

◎「見守りネットワーク」協定書合同調印式

2月27日、松山市の愛媛県庁で「高齢者等見守りネットワークに関する協定書」の合同調印式が行われ、県内13市町と10の協力事業所が出席しました。

これは、民間事業者の協力を得て見守りの輪を広げることにより、高齢者等の安全・安心の確保と安否の早期確認を図ることを目的としたもので、鬼北町は銀行やスーパーなど町内5つの協力事業所と協定を結びました。

今後は、地域に密着した事業所だからこそ気づける異変をもとに、協力事業所と町が連携して、安全・安心のまちづくりを進めていきます。

切手を披露する甲岡町長と渡邊支社長

鬼北町の魅力が詰まった記念切手完成

◎鬼北町オリジナルフレーム記念切手贈呈式

「宇和島鉄道・予土線宇和島―近永間開通100周年」を記念して販売される「鬼北町オリジナルフレーム切手」の贈呈式が3月4日、中央公民館で行われました。

式には、郵便局株式会社関係者や町関係者ら10名が出席。郵便局株式会社四国支社長の渡邊伸司氏から甲岡秀文鬼北町長へ記念切手が手渡されました。

記念切手には、鉄道ホビートレイン、沿線からの鬼北町の風景や鬼北町庁舎などの写真を使用。この切手を通して予土線の、そして鬼北町の魅力を町内外へと発信していきます。